

柘植地域

まちづくりだより

第288号

発行

柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)

〒五一九一四〇二
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三



柘植地域俳句コーナー
葱の葉の
真つ直ぐ宙へ
春立てり

中村成子

未来の山づくりを推進

柘植地域活性化の為に

柘植地域まちづくり協議会

会長 町田 盛次

明けましておめでとうございます。
柘植地域の皆さんに於かれましては新年をお健やかに迎えの事と心よりお慶び申し上げます。

「新型コロナ」の猛威は三年に渡り、小生が会長に就任以来の一昨年からも、様々な制約下、思うような活動が出来なかつた事も事実です。

此のような状況下、柘植まち協の各委員会・委員会に於きましても、今出来る事と、出来ない事を取捨選択しつつ、可能な限り精一杯の活動であつたように思います。

小職が二年前の就任時に掲げた「柘植地域まちづくりビジョン」(指針)は「未来の山づくり」事業を筆頭とした柘植地域の産業振興に資する計画をその要(かなめ)とした次第です。



本件(伊賀市未来の山づくり事業)の主眼に据えた『ミツマタ植樹』は多くの皆さんの御協力を得て今年で2回目の植樹が完了。合計二千本を植え、三カ年計画の最後と為る今年、更に千本の植樹をし、ミツマタの群生地・日本一を目指します。植樹の利点は治水対策の観点からも非常に有効です。

一方「余野公園」は、柘植の大いなる資産に尽き、常に整備が必要ですが、昨秋つつじに寄生したツル切り作業を余野公園保勝会と柘植財産区及び有志の面で実施し、今春の観光

シーズンに備えています。

又、「柘植の特産品」創出の一環として、コンニャク芋を栽培し、収穫した芋からコンニャクを作り試食結果は上々『きれいな物を見て美味しい物を食べれば誰しも満足。文句は言わん。』私の持論であります。

十年後二十年後の「未来の山」の景観に想いを馳せ、更には「高級和紙」の生産に至る事を念じつつ「将来に夢が描ける柘植地域」である事を祈願して居ります。

新年のご挨拶

伊賀市長 岡本 栄



あけまして

おめでとうございます。

柘植地域の皆さんには健やかに新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。旧年中はもとより、日ごろから市政運営に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る行動制限が付されていなかった事もあり、ユネスコ無形文化遺産の

「上野天神祭りだんじり行事」は、3年振りに行われました。まだまだ従前の賑わいには及びませんが、長きに渡り先人が育み今日迄受け継がれて来た伝統文化の重みを実感したところです。そのような中、昨年十一月三十日に「勝手神社の神事踊」を含む日本の「風流踊」41件がユネスコ無形文化遺産に登録されました。一つの市で二つのユネスコ無形文化遺産に認定された事を大変嬉しく誇りに思うところです。

コロナ禍に於ける社会情勢の変化、また原油価格・物価高騰の影響を受け、市民の暮らしや市内事業者の活動を早期に支援する為の施策展開を図っていますので、皆様方には感染防止対策の更なる徹底の御協力を宜しくお願い致します。

市政については、『こども・くらし・にぎわい』の三本柱を軸に今年も推進していきます。『こども』では、児童生徒に一人一台配置したタブレット端末を活用し、主体的・対話的で、深い学びを実現する為の教育の実践を進める事としています。

また全ての市民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育む地域社会を実現する為「食育推進計画」に基づき、市民の皆さんと共に食育の推進に取り組みたいと考えています。

『くらし』では、JR関西本線について「関西本線活性化利用促進三重県会議」が

発足。4回の会議が開催され住民と危機感を共有し、利用者の増加に繋がる取り組みを検討しています。伊賀市としても三重県・亀山市・JR西日本と共に線区利便性の再生や活性化、利用促進に向けての提言等を行っていききたいと考えています。

また、今年度から地区市民センター等に配置した生涯学習支援員が住民自治協議会との連携を図りながら取組を進めています。

『にぎわい』では、「にぎわい忍者回廊PFI事業」について、城下町での回遊・観光の振興と市内全域でのにぎわい創出といったエリアマネジメントと、集客をまちなかに回遊させる仕掛けや、コンテンツの整備等PFI事業を円滑に進める為、事業者、行政らには、市民一体となって成功に導いていかなければと考えています。

柘植地域まちづくり協議会の皆さんにはJR柘植駅を取り巻く人々の賑わいを取り戻す為、「JR柘植駅改札口の待合いスペースに於けるユーズドブック事業」や、霊山でのミツマタ植樹など『未来の山づくり事業』など地域の活性化・にぎわい創出事業など様々な取り組みに対して深い敬意を表するとともに更なる取り組みに期待しています。

結びに、貴協議会の益々の発展と、皆さんの御健勝・御多幸を祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

令和四年度第二回 『運営委員会』十一月二十五日(金)午後8時から市民センターにて開催。冒頭、伊賀市社会福祉協議会・平井俊圭会長より「愛の里デイサービスセンター事業終了について」事由の説明有り。老朽化に伴う多額の改修工事費の拠出が不可能/事業所の経営環境が悪化し過去5年間連年支出超過へ人件費増及び光熱水費高騰に振り法人全体の経営を圧迫等により事業継続不可に至った次第との事です。市からの地域包括交付金減額に対応



する措置として第1号議案役員委員の報酬に關する規則改正案(減額)が承認され更に地区配布手数料の改正案も1号議案同様減額承認されました。

【サークル・教室紹介】第十二弾

『はなみずき句会』幹事 北嶋ちゑ子

「はなみずき」の花言葉は、「永続性」

俳句は末長くずっと心に残るもの。昔作った俳句を読むと、その時の自分や家族、友達や風景が蘇ってきます。たった五・七・五の短い文章なのに・・・

私達のサークルは、五人ですが、それぞれの生活の中で、介護や看護する者を抱えながら、俳句だけでなく生活の中の悩みやしんどさを話したり励まし合ったり助け合ったりして、日々の生活を送っています。

何度か挫折そうに為り止めようかと思いましたが、宮田正和先生の優しい励ましと添削の丁寧さ、そして教えて戴く事の多さそれで、自分の俳句が蘇るような気がして何とか続けています。

長く俳句を楽しんでいる方から、始めたばかりの者まで、言葉や漢字の分からない時は何でも教えたり教えられたり、言いたいことを言い合い、最後は「そうだ、宮田先生に教えてもらおう。」となるのですが「私の言いたい言葉は、これやったんや」なんて・・・いつも納得のいく素晴らしい俳句になって戻ってきます。

俳聖芭蕉のふるさとで、五・七・五の俳句を鉛筆と紙さえ有れば続けられる趣味と一緒に始めてみませんか。



お正月らしい俳句を一句ずつ

黒豆を松葉に通し喰積くいつみに

すすい

ただ嘍りすすいあるをしみじみ七日粥

ななくさ

七種を口遊ずさみたる傘寿かな

澄子

母のもち小さく切り分く雑煮かな 伸子

湯気あふる家族総出の餅つきぞ ちゑ子

健康料理教室【ジビエ料理教室】

十二月四日(日)健康福祉部会・増岡茂樹部会長の発案企画で、市民センターの厨房にて開催。今回も地元食材の猪肉を使った「シン鍋/カレーライス/燻製」を調理。参加者の評判は「どれも美味しかったです。上々の出来具合に満足しました。」との事でした。ジビエ(フランス語/野生鳥獣肉の料理)は、「鳥獣害対策」並びに将来の食糧不足を補填する手段として昆虫食と合わせ世界的に注目されています。



クリスマス

コンサート

教育文化部会



十二月十七日(土)午後、市民センターホールにて今年も開催致しました。3組のグループの方々に出演戴き、オープニングは柘植青葉台の音楽愛好家グループ「グリーンリーブス」の皆さんからスタート。翼をください・川の流れのように・広い河岸辺・日向の道で・北の国から・竹田の子守唄・となりのトトロを演奏/次に、いがまちフラダンスサークル「イガフラサークル」の皆さん



でパリーリシエル・アロハクウホメ・カリポニを踊られ、2組とも日頃センターでの練習成果を披露されました。その後参加者にクリスマスプレゼントが配られトリの出演は「アンダンテ」ソプラノ



大橋明日美さんと、ピアノ水谷礼佳さんのデュオ(共に伊賀市出身上野高校から奈良教育大学音楽教育専修卒・同大学院修士課程音楽教育専修終了)に依る「アヴェマリア」・主人の望みの喜びよ(ハッハ)「アメイジンググレイス」・戦場のメリークリスマスへ坂本龍一「アルヤヘモーツアルト」第2部はサンタが町にやって来る・赤鼻のトナカイ・ジングルベル・讃美歌4曲でお開きのコンサートでした。ありがとうございます!

★ 編集後記 ★

新年明けましておめでとう御座います。降る雪や明治は遠くなりけり。中村草田男が此の句を詠んだのは昭和6(1931)年、三十歳の作。明治は45(1912)年迄に尽き、約20年で明治・大正昭和と元号が変わり、時代の変遷への感慨は一人だったと思われまます。中村草田男明治34年生・東京帝国大学国文科卒・国文学者・俳人/忌日は草田男忌で夏の季語昭和が続いておれば今年も昭和九十八年。昭和も遠くなりけり……

じっかん

かんし

十千と十二支を組み合せて用い、千支を「えと」と称するに至りました。其の組み合わせが六十通り有り、一巡すると「還暦」今年の千支は、十千の十番目「癸」(みずのと)、十二支では四番目「卯」(う)との組み合わせで「癸の卯」の年に為ります。

株式会社市場では「辰巳天井、寅千里を走り、卯は跳ねる」と云う格言有り「卯年」は兎の跳躍から景気が好転又は回復すると云われ2023年は縁起の良い年と見立てて居ます。卯(うさぎ)は穏やかで温厚な性質から「家内安全」を意味し、その飛び姿から「飛躍」「向上」を象徴。新しい事に挑戦するには最適な年と言われています。

長引くコロナ禍で沈滞を余儀無くされた世界。今年こそ停滞から脱し、成長出来る良い年であります様 祈念致します。(清水)